

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193900014		
法人名	社会福祉法人 さきたま会		
事業所名	羽生市もくせいのみ		
所在地	埼玉県羽生市下手子林691-2		
自己評価作成日	令和3年3月15日	評価結果市町村受理日	令和3年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年4月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの個性を尊重し、認知症の高齢者の住み慣れた地域で暮らし続けられるように考え、支援しています。個人の家を改築したため、他の施設より不便なところもあるかと思うが、今まで暮らしていた家で過ごしているかのように 庭には四季折々の野菜や花を栽培し、食卓には栽培した野菜を調理したものを提供したり、花を飾り季節を感じていただけるようにしています。また、季節の行事も大切に行っています。基本方針の心豊かに 明るく 健やかに 長生きして本当によかったと思える暮らしに沿い、職員の確保・養成を行いつつ、利用者の日々の暮らしを楽しく過ごしていただけるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・庭での日光浴の際には飼育している鶏を放ち、餌やりをされたり、小学生との挨拶運動やうどん打ちなど、利用者が笑顔で楽しい時間を過ごされるよう支援に取り組まれている。
 ・運営推進会議は、コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、書面にて報告をし、事業所の取り組みについての評価や意見をいただき、事業所運営やサービスの向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。
 ・目標達成計画についても、定期訓練では消防署員の支援のもと、火災発生を想定し、初期消火・通報・避難誘導訓練に取り組まれるほか、備蓄食料品の試食や点検整備に取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議や日々の申し送りなど職員が集まる機会には理念の確認を行っている	「心豊かに明るく健やかに、長生きをして本当に良かったと思える暮らし」という理念のもと、安らぎある環境の中、利用者の思いを大切に、笑顔で過ごされるよう支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の授業の一環として認知症サポーター養成講座を行い、児童との交流を行っている。また、地域の行事等に参加したいが、今年はコロナの関係で行事等が中止となっている。	最近では自粛をされているが、外出時には近所の方と挨拶を交わされたり、地域のイベントや公民館活動への参加、小学生との交流など、利用者が地域との関わりを持ちながら暮らし続けられるよう取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症の理解や支援方法を理解していただくために地域の行事参加やオレンジカフェを開催したいがコロナの関係で中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や地域の方々と連携を図り、利用者により良いサービスが支援できるようにしている。	コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、書面にて報告をし、事業所の取り組みについての評価や意見をいただき、事業所運営やサービスの向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスの内容や利用者に変化があった場合は行政と連絡を取り合いながら、利用者のサービス向上に取り組んでいる。	行政の担当者には、運営推進会議でアドバイスをいただいたり、申請手続き時や介護支援専門員の会議などの機会にコミュニケーションを図られ、良好な関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則施錠はしない。利用者一人ひとりの日々の身体・精神状態を把握し、見守りながら支援している。	身体拘束廃止委員会が定期的に行われているほか、研修も行き、全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動の抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修会に参加したり、研修報告により、職員研修を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加したり、研修報告による職員研修を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やその家族に理解していただけるように説明を行っており、その都度、質問等にも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談機関を明示しその説明を行っている。来訪者には利用者の健康状態等を伝えるとともに要望や希望を確認している。	「外に出たい」、「歌謡曲を聴きたい」など、利用者の要望に応えられている。家族については面会時や運営推進会議などで意見・要望を聞き取り、職員間で話し合い、サービスや運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の不満や意見などを聞き、改善すべきところは都度対応行い、職員会議等で意見を話し合えるように努めている。	定例会議や個別面談時などで意見・提案を聴きとられるほか、発言し易い職場環境がつけられ、レクリエーション企画や個別ケア対策など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい職環境などを整備し、職員が向上心を高められるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を図るためにも外部研修への参加や法人内での研修への参加の機会を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の運営会議に参加し、意見交換を行い、他の事業所の職員との交流に努めている。また、地域の交流会(今年度はオンラインないし中止)に参加することでネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が遅れるように利用者やその家族との信頼関係に作りを図り、不安など話せる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者やその家族から今までの生活歴を聞き、今後の要望等伺いながら信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やその家族から要望を聞き、その中より今、必要な支援を見つけ、対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や趣味などを通して、日々の生活の中でお互いの信頼関係を築けるように努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者やその家族から話をよく聞き、話し合いに努め、家族とともに利用者を支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの関係で訪問、外出の機会は少なくなっているが、関係が途切れないように検討し支援している。	最近では自粛されているが、近くの神社に初詣に出かけられたり、季節毎には花の名所に出かけられるほか、地域の文化祭や同法人の介護老人福祉施設の催事に出かけ、馴染みの方々と一緒に楽しめるなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	掃除や洗濯干し・洗濯たみなど、お互いに協力しながら行えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所・契約終了後も利用者文その家族より連絡等あればいつでも相談等に応じる体制はできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動を聞き取り、家族と相談しながら、本人の希望や意向の把握に努めている。	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に寄り添うことで、思いや意向を把握されている。現在、把握が難しい利用者はいないものの、日々の様々な機会での利用者の発する言葉や家族からの情報提供を受け、利用者本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りや家族との話の中からや本人との会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の申し送り・日誌・ケース記録より、状況確認を行い、ケース会議や職員会議にて情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には本人・家族より希望確認に努め、日常生活の中では職員から状況確認を行いケース会議などで話し合い介護計画に反映できるように努めている。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、全職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさを大切に、いつまでも元気に過ごされるよう、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース会議等で介護計画の情報共有を行い、計画に沿った介護実践を行い、ケース記入をし、介護計画の見直しに努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の介護老人福祉施設が近くにあり、季節の行事や催事に参加交流を通じて支援を行っている。(コロナの関係で中止)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りやイベントごとに参加を検討していたが今年度は中止。感染防止策を検討して参加できることは検討していきたい。駐在所にも見守りしていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望を聞き、希望の医療機関を受診できるように支援しています、また嘱託医にも相談できる関係を築いている。	利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本とし、必要な情報提供を行ない、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調変化時には主治医や看護師に報告・連絡・相談できるような体制づくりを築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族と連絡を密にし、職員・病院関係者との情報交換ができる体制づくりを築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時や体調変化時、家族への説明と同意を十分に行うが(契約書にも記載あり)職員間でも方針を共有している。	入所時に重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一をされている。その後も意思確認を進めながら、希望に沿った最大限のケアに向け取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、定期的に訓練を行っている。	定期訓練では消防署員の支援のもと、火災発生を想定し、初期消火・通報・避難誘導訓練に取り組まれている。また、備蓄食料品の試食や点検整備など、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。今期、新任職員の採用があったことから、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用や一人ひとりの人権を尊重した言葉かけを行っている。日頃から利用者のプライバシーを損なわないように配慮している。	他人に知られたいくないことや聞かれたいくないことには注意が払われており、不穏や心配な様子の時は、落ち着くのを待って対応が行われるなど、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわぬよう、きめ細かな対応をとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の理解に合わせた言葉使いや説明の仕方を考慮し、本人の思いや希望があらわせるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で一人ひとりの希望するペースに沿って支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や行事に合わせてその人らしい身だしなみやおしゃれができるように声掛け・支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けもできることは協力してもらい、楽しみながら食事ができるように努めている。	利用者個々の力に合わせ、食事の準備や後片付けを職員と共に行っている。食材調達から調理を全て職員が行い、美味しい家庭料理が提供されている。また、切干し大根づくりや手打ちうどんを楽しまれるなど、食の楽しみを大切にした支援に取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の確認を行い、毎日記録している。体調変化時など職員間で話し合い、ひとり一人に合わせた食事提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うように声掛けを行い、支援に努めている。状態によっては歯科受診もしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンの把握に努め、排泄パターンに合わせた支援に努めている。	一人ひとりの排泄パターン・習慣を把握して適宜、声掛けを行うほか、利用者個々に事前に誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアに取り組み、失敗防止やオムツ類の使用量削減及び自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック行い、体調の変化に合わせ、食事・水分量の確認を行っている。また主治医とも相談し、対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回(月・水・金)午前中に行っている。入浴前はバイタルチェックや水分補給を行い、季節や体調の変化に合わせた対応に努めている。	入浴日と時間は設定されているが、利用者の希望に沿い湯船にゆっくり浸かっている。また、体調不良で入浴できない場合は、シャワー浴や清拭など状況に合わせて対応をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気のいい日には布団を干し、定期的にシーツ類の洗濯を行っている。また季節や利用者に合わせてリネンの提供を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は必ず職員が確認している。症状の変化時は、主治医と相談確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事、レク活動への参加を通して、一人ひとりの役割や楽しみ方を見つけていただき、日々の生活に活かせるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩・外気浴・外出など可能な限り、本人の希望を尊重し、家族の支援を受けながら対応に努めている。	現状、外出は自粛の為、事業所周辺での散歩、玄関前や庭での日光浴やお茶会を楽しまれている。また、小学生の帰宅時に合わせ玄関前を出て、挨拶を交わすなど、外に出る機会を持ち、気分転換とストレス発散を図られるよう支援をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者はお金を所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎは行っている。希望があれば掛けることもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節のものを飾ったり、利用者の作品を掲示し、季節感が感じられる空間づくりに努めている。廊下からは庭が眺められ、季節感を楽しめるようになっている。	共用スペースには季節の花や利用者の書が飾られている。キッチン併設により、調理の音や匂いなど、生活感が感じられる備えとなっている。また、縁側には長椅子、庭にはベンチが置かれ、利用者が庭を眺めながら、ゆっくり過ごせるよう工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席は利用者同士が会話したりして過ごせるように努めている。また気分転換が図れる空間作りにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたものや、自分で作った作品を飾り、居心地のいい空間づくりに努めている。	馴染みの寝具やタンス、家族の写真、自筆の書や塗り絵などが持ち込まれ、利用者が気分良くゆっくり過ごされるよう工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の[できること][わかること]を情報共有し、その人らしい生活が送れるように努めている。		

(別紙4(2))

事業所名:羽生市もくせいの里

目標達成計画

作成日: 令和 3年 5月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害はいつどんな時おこるかわからない。そのため災害への対策、備えは重要である。今年度も職員、入居者のいれかわりがあったため、災害対策のとりくみ等の再確認をする必要がある。	訓練や会議等で災害対策へのとりくみなどを再検討する。	・会議等で話し合いを持ち、計画書の再確認。 ・食料品・防災機材など備蓄品リストの再確認。 ・連絡体制の整備、連絡方法の再確認。 ・地域や各関係機関との体制の再確認。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。